

29年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 8月1日～ 29年8月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 22.2	5.6	22.2
	ヒノキ	△ 25.0	8.3	25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	25.0	50.0
消費動向	スギ	0.0	16.7	16.7
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	33.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	5.6	11.1
	ヒノキ	△ 40.0	△ 30.0	△ 20.0
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0

・製材用原木の入荷動向は、スギ、ヒノキとも8月の減少から9月、10月は増加に。カラマツは3カ月連続減少。トドマツは8月の横ばいから9月、10月は増加に。
・消費動向は、スギは8月の横ばいから9月、10月は増加に。ヒノキは8月の減少から9月は、10月は増加に。カラマツは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。トドマツは8月の増加から9月、10月は横ばいに。
・在庫動向は、スギは8月の減少から9月、10月は増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは8月の横ばいから9月、10月は減少に。トドマツは8月、9月の横ばいから10月は増加に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/8月	9月	10月
スギ	16.7	27.8	22.2
ヒノキ	25.0	16.7	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・製材用原木の価格動向は、スギ、ヒノキとも強含み。カラマツ、トドマツは保合い。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・7月より入荷は低調。森林組合は下刈に入っており、造材作業は少なくなっている。消費は、7～8月は例年閑散期であり出荷は平年並み。カラマツの在庫は減少気味（北海道）。
・造材期に入りトドマツ丸太は少しづつ入荷増も、年内一杯は不足感ありか。原木在庫に合わせて生産受注は堅調。在庫は10日分で綱渡り（北海道）。
・伐採適期ではなくスギ・ヒノキとも入荷減。消費は横ばい（関東）。
・入荷は、寒切り材の消化による（関東）。
・入荷は、相変わらずヒノキ丸太は順調。スギは太いところは出材多いが、柱口等は低調のまま。消費は入荷に応じて製材している状態が続く。在庫は入荷が減少した分減（中国）。
・ヒノキの入荷が少なくなっている。機械の不具合により生産量低下（中国）。
・入荷は、雨の状況等による一時的な減少がある。消費は変化なし（九州）。
・10月に向かって徐々に出荷が増し入荷も増えてくる。暑さも和らぎ仕事しがし易くなる。

(原木価格)

・トドマツは全道的に不足感あり。取り合いになれば価格上昇（北海道）。
・原木価格は変わらず（中国）。
・大きな変化はないように思われる（中国）。

29年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
生産動向	スギ	0.0	11.1	16.7
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	8.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	5.6	5.6	11.1
	ヒノキ	△ 16.7	0.0	8.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—
在庫動向	スギ	△ 42.9	△ 35.7	△ 35.7
	ヒノキ	△ 58.3	△ 41.7	△ 25.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は8月の横ばいから9月、10月は増加に。ヒノキ、カラマツとも8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。トドマツは3カ月連続減少。

・スギ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。

・在庫動向はスギ、ヒノキとも3カ月連続減少。カラマツ、トドマツは3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	16.7	16.7	11.1
	柱角 KD12×3	22.2	11.1	11.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	7.1	7.1	7.1
	母屋角	14.3	14.3	14.3
	タルキ	7.1	7.1	7.1
	間柱	6.3	6.3	6.3
	ヌキ	7.1	7.1	7.1
	平割	7.1	7.1	7.1
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	21.4	21.4
柱角 KD12×3		8.3	8.3	8.3
土台角 10.5×4		16.7	33.3	41.7
土台角 12×4		8.3	8.3	8.3
通し柱 12×6		12.5	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	50.0	0.0	

・製材品の出荷価格動向は、スギは通し柱及びびラミナは保合い。これ以外の品目は強含み。

・ヒノキは通し柱及びびラミナは保合い。これ以外の品目は強含み。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも保合い。

・トドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・カラマツの生産動向は、9月より増加見込（北海道）。
- ・週の出荷分を生産している。トドマツ製材品の出荷堅調（北海道）。
- ・原木の入荷減で生産もやや減少。生産したものは出荷に向けていく（関東）。
- ・丸太の入荷に応じて製材してい状態が続いている。出荷は柱・土台等の需要は堅調。なかなか需要に応じきれない状態（中国）。
- ・ヒノキ丸太は7月末入荷減。価格も上昇するも、8月に入り少しずつ下げ元の価格におさまりつつある（中国）。
- ・機械の不具合により生産量低下。生産が回復するにつれ出荷は増えてくる。A品在庫は薄い（中国）。
- ・残業等をして増産をしたいメーカーもあるが、気温の上昇等により難しい状況。在庫は、KD管柱や間柱は品薄が続くのではないかと（九州）。
- ・暑い季節が過ぎれば通常の生産に戻る。また9月から残業開始。製品の出荷は順調（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- トドマツサンギ出荷価格は、高値でも安定的に原木があれば値上げで動く（北海道）。
- スギは全品目で落ち着いている（関東）。
- 注文の多い品目については少しづつ値上げしている（中国）。
- スギは大きな変化はないように思われる。ヒノキ10.5角については、若干の値上げもあり得る（中国）
- ヒノキ製材品は9月、10月徐々に価格を上げていくつもり（九州）。

29年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	50.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は、8月、9月の横ばいから10月は増加に。NZラジアータは3か月連続横ばい推移。

・消費及び在庫動向は、ベイマツ丸太は8月の横ばいから9月、10月は増加に。NZラジアータは3か月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/8月	9月	10月
米マツ丸太	50.0	50.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・製材用原木の購入価格動向は、米マツ丸太は強含み。NZラジアータ丸太は保合い。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太は入荷、消費、在庫とも変化なし。

(原木価格動向)

- ・ラジアータ丸太の購入価格は変化なし。

29年8月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

- ・米マツ製材品の生産・出荷動向は、8月の減少から9月、10月は増加に。在庫動向は、8月、9月の横ばいから10月は減少に。
- ・NZラジアータ製材品は生産・出荷在庫とも3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
米マツ平角		0.0	50.0	50.0
米マツ正角		0.0	50.0	50.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	50.0
NZ土木用材		0.0	50.0	50.0
その他		—	—	—

- ・製材品の出荷価格動向は、米マツ平角、正角は強含み。小割は保含み。
- ・NZ梱包材（割板・割角）、土木用材とも強含み。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・ニュージーランドマツ製材品は生産、出荷、在庫とも変化なし。

(製材品出荷価格動向)

- ・梱包材（割板・割角）、土木用材とも値上げする予定。